

Web Usability & Accessibility

19 (財)地方自治情報センターサイト



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット
URL <http://www.udit-jp.com>
「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング。高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

フレームの安易な使用でサイトの使い勝手を阻害

不参加の地方自治体が出る中で、「住民基本台帳ネットワークシステム(住基ネット)」が8月から稼動した。届出・申請手続きの効率化、電子政府・電子自治体推進の基盤になるとはいえ、個人情報管理、住民票コード登録に危惧を抱く国民も多い。住基ネットをはじめ、地方自治体の高度情報化を支援する(財)地方自治情報センター(LASDEC)のサイトでは、十分な情報公開・管理がなされているか。Webの「ユーザビリティ&アクセシビリティ」の達人、濱田・石田両氏が、同サイトに判定を下す。

一見便利そうなフレーム技術だが…

インターネットが普及し始めた当時、フレームで作られたサイトを見て画期的な技術だと感動したのを覚えています。フレームはナビゲーションメニュー、広告など、常に表示しておきたい項目を管理するのに便利で、ユーザビリティに最適のようにみえます。しかし、実は問題の多い技術なのです。

フレームを使っているページでは、タイトルやURLが実際のコンテンツのページを指し示していません。タイトルは現在位置を示す重要な情報なので、これが使えないのはユーザビリティにおいて致命的です。地方自治情報センターでも、メニューの「組織」を開くとコンテンツページにタイトルがなく、ウィンドウタイトルもトップページと同じなので、どこのページを見ているのかわからなくなります(64ページ:図3)。さらに、URLが直接の内容ページを表示しないため、フレームのページをブックマークしても、現在のページを直接ブックマークできない場合があります。

常時表示する部分のフレーム幅が固定されていると、小さい画面では肝心のコンテンツページのエリアが狭くなってしまいます。これを表示するために、フレームごとのスクロールバーを動かさなければなりません。またフレームのページは、ブラウザによっては画面イメージと同じに印刷できない場合

があります。

フレームは今ではいざさか時代遅れな技術といってもよいでしょう。使いやすいデザインに力を入れているサイトでは、フレームは今ではあまり見られません。

音声での理解を妨げる無駄なフレーム構成

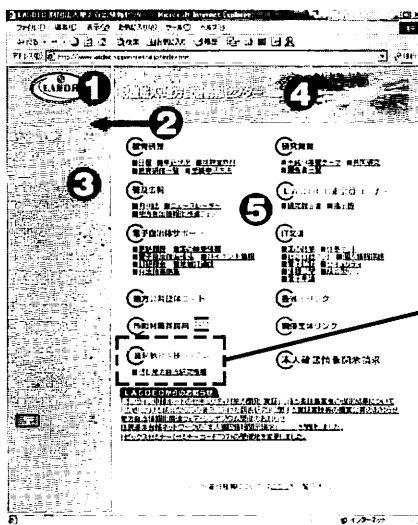
音声ブラウザは、フレームで構成されている各ページを1ページずつ認識して読み上げてくれます。重要ではない情報のためにフレームを使うことは、音声での理解を妨げることになります。

地方自治情報センターでは、5つのフレームが使われています。図1-①にはロゴが、②はデザインのために、③はメニュー、④は財団名、⑤に内容、という構成です。

つまり、音声で情報を得ている人にとってフレーム①②④は重要なものではありません。また、図2は代表的な音声ブラウザの表示画面ですが、フレームのそれぞれのページタイトルが表示されています。このように、各ページの<title>が同じだったり、何も入ってなかったり、どのフレームページに必要な情報があるのかわかりません。また、NOFRAMES要素も入っていないので、テキストブラウザでは情報を得られません。

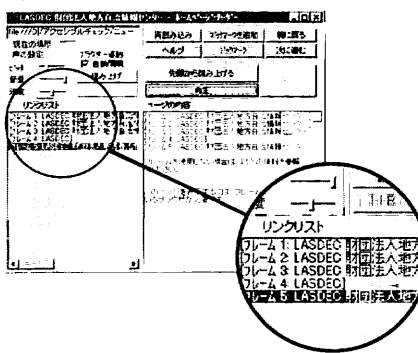
②のデザインフレームは当然ですが、①のロゴと④の財団名は、本文の初めに入れると、フレームを2つに減らすことができます。また、テーブルやスタイルシートを使えば、フレームを使わずに、同じようなデザインで作ることもできます。

図1



*図6へ

図2



ユーザビリティ総合評価 ★★☆☆☆

一見きれいに整理されているようですが、よく見ていくと情報の整理ができていないのがわかります。情報通信の普及を目指す団体としては、いま一步です。

アクセシビリティ総合評価 ★★☆☆☆

フレームが多用されていることによって評価が下がりました。

ユーザビリティについて (解説/石田直子)

ユーザーにサイトの目的が伝わること ★

「地方自治情報センター」といわれても、具体的にどんなことをしているのか、団体名だけでは理解できません。団体の紹介やサイトの目的にあたるものは、「組織」の項目をクリックすると出てくる、理事長の挨拶の中に、次のように書かれています(図3)。

「地方自治情報センターは、地方公共団体におけるコンピュータの有効かつ適切な利用の促進を図るため、<中略>このホームページが地方公共団体の情報通信ネットワークの普及に貢献し、様々な情報提供の場として活用していただければ幸いです」。

理事長の挨拶をトップページに持ってこいというのではなく、上記のような内容が、簡潔にトップページに書かれていると、目次の構成もユーザーにわかりやすくなります。

全体像がトップページで把握できること ★★

サイトのコンテンツがトップページにきれいに並べられ、サイトの目次としての役割は十分ですが、全体像が伝わりません。これは上の「サイトの目的」につながりますが、全体像をユーザーに把握させるのと同時に、サイトの概要が伝わらなければなりません。何を伝えようとしているのがユーザーに認識された上で、目次に意味が出てきます。目次だけでサイトの目的や役割を伝えられるというラッキーな例もありますが、このサイトではそうはなっていません。

デザインや構成が統一されていること ★★

左にナビゲーションメニューを用意している以上、これを使って移動するページは、ナビゲーションメニューを継承すべきです。ある建物の中でドアをあけたら別の建物へ入ってしまう、「どこでもドア」のようなリンクはユーザーを混乱させます。違うサイトや別の情報サービスへ移動するものはナビゲーションに入れないように。またトップページに書かれているメニュー項目と、ナビゲーションが一致していません。

必要な情報が適切な場所にあること ★★

ナビゲーションメニューの各情報ページのタイトルが、リンク名と異なるものがあります(図3-①、②)。これではナビゲーションが用意してあっても、自分がその中のどこにいるのかわかりません。

またサイトマップ(図4)も、トップページの項目と一致せず、ナビゲーションの項目もすべて入っていません。サイトマップは、トップページやナビゲーションで見つけにくい特定の情報に直接ジャンプできてこそメリットがあります。

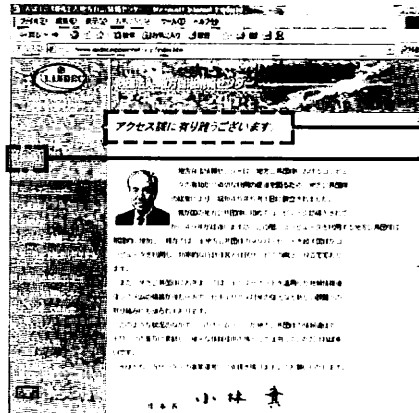
次の動作がわかりやすいこと ★★

「情報検索」と「ホームページ内検索」とありますが、どのように違うのでしょうか。「情報検索」では外部の情報へのリンクのリスト(図5)がありますが、これは検索ではありません。検索フォームを期待してこれを開いたユーザーは戸惑うでしょう。

予想されたフィードバックが返ってくること ★★★

この連載でも再三書いていますが、新しいウィンドウを開くリンクは理由がない限り避けましょう。図1の項目(囲み部分)をクリックすると、図6の「法制実務支援システム」が開きます。この場合は別のサイトであることを示すために新しいウィンドウを開いているようです。ユーザーがクリックする前に、別サイトへのリンクとわかるようにしましょう。

図3



① 組織: クリックすると②のフレームが開く

図4



図5



図6

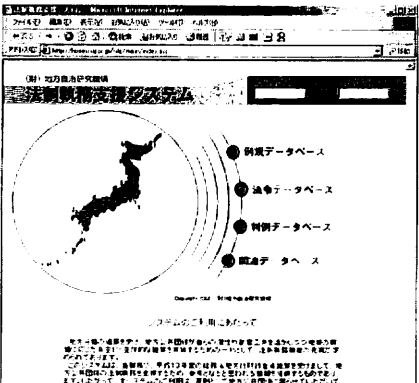
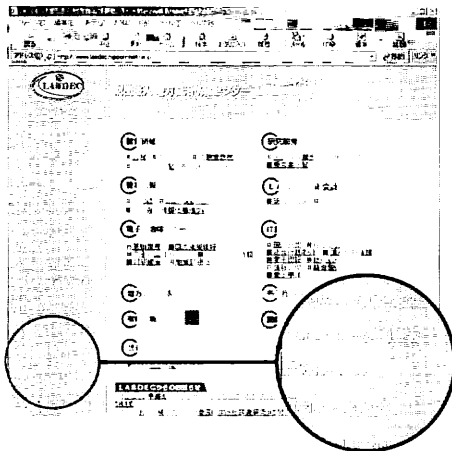


図7



アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

画像にはALT属性をつけること ★★

ALT属性がついていなかったり、適切でないものや二重読みする箇所がありました。

外国語の乱用はしないこと ★★

一部にわかりにくい英語が使われています。

<title>タグは的確につけること ★★★

タイトルが入っていないものや、内容と合致していないものがありました。

背景と文字色はコントラストがあること ★★★

一部の背景やタイトルに見にくいところがあります。

フレームの使用は必要最小限にすること ★

5つものフレームが使われており、再検討する必要があるでしょう。

新しい技術には代替手段を用意すること ★★★★★

新しい技術は使われていないようです。

その他

【トップページ】

●ALT属性のつけ方 (図7)

左のフレームにあるメニューのワンポイント画像には、右のテキストリンクと同じ言葉がALT属性に入っています。音声ブラウザでは二重読みになるので、意味のない画像には全角スペースを入れておきましょう。

●メニュー項目配置

メニュー項目の最後方に「フレームなし版」がありますが、これは最初にあった方がよいと思います。また、NOFRAMES要素にもリンク先として入れておく必要があります。

●日本語の表記

目次の「ディスクロージャー」は「業務・財務資料」といった日本語にした方がわかりやすいと思います。

【組織】

●単語内スペース (図8)

「戻る」というリンクがありますが、単語の間にスペースが空いているため、音声ブラウザでは「レイル」と読まれてしまいます。

●地図のALT属性のつけ方 (図8)

このページの地図画像には「地方自治情報センター地図」としか入っていません。地図などのALT属性のつけ方は難しいものですが、基本的には電話で案内することを考えるとよいでしょう。この場合ならば、「地図：地下鉄半蔵門線半蔵門駅下車、4番出口から右方向すぐの全国町村議員会館内にあります」などとつけばよいでしょう。

【教育研修事業の申込状況】

●記号による情報の提供 (図9)

このページには「○の場合：申込できます」「△の場合：少し余裕があります」「×の場合：申込を締め切っています」「◇の場合：キャンセルが出ました」のような記号による情報提供があります。

一般的な音声ブラウザの初期設定では記号は読み飛ばしてしまうので、情報が伝わりません。少し面倒ですが、記号を画像にしてALT属性を使うのが一般的だと思います。

【ディスクロージャー】

●文字の配色 (図10)

「業務・財務等に関する資料」や年度のタイトルは赤文字に黒の縁や陰をつけていますが、つぶれていて見にくくなっています。配色や加工には十分配慮をしましょう。

●特別なファイルへのリンク

このページの「寄付行為」「役員名簿」などはPDFファイルにリンクされています。HTML以外のファイルにリンクする場合は、事前にわかるように配慮すべきです。「役員名簿」などは1ページしかないのに、HTML変換しておいた方がよいでしょう。

また、PDFのように別のソフトが必要なものは、ソフトの提供場所を知らせましょう。

図8

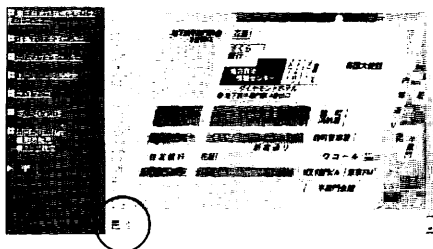


図9

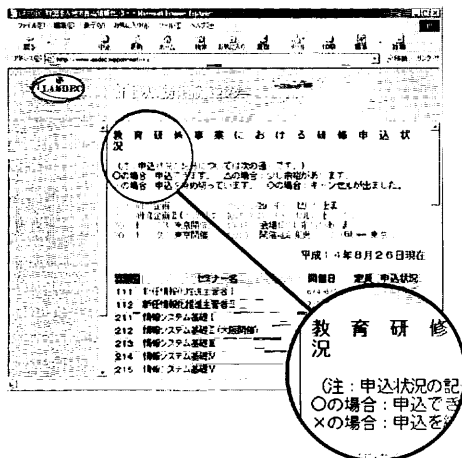


図10

